

トーゴ

【国名】

- 「トーゴ」とは、最大の部族であるエヴェ族の言葉で「川辺の村」の意味。「ト」は水、「ゴ」は川の堤防を意味する。

【国旗】

- 国旗の赤色は博愛と忠誠、緑色は国民と農業、黄色は富と精神的な向上の象徴。白星は光明と自由と独立の象徴で、緑と黄色の五本のラインは国内の五つの地方を表わす。



トーゴ国旗

【国土】

- アフリカ西部のギニア湾に面する沿岸国。面積は日本の約6分の1（56,785 km²）。首都はロメ。人口は約780万人。



【民族】

- 南部を代表するのはキリスト教を信仰するエヴェ族でガーナやベナンにまたがって居住。北部にはカブレ族等イスラム教徒が多い。その他には、ミナ（ブラジルから帰還した混血民の子孫）等。

【旧宗主国ドイツ】

- 旧宗主国は西アフリカでは珍しいドイツ（1884～1919年。以降はフランス委任統治領）。その名残で、ビールやソーセージが美味。10数年前までは西アフリカではトーゴでしか生ビールが飲めなかった。町にもドイツ風の建築が残る。



【サッカー・トーゴ代表】

- 2006年FIFAワールドカップでトーゴはワールドカップ初出場を果たした。特に、ロメ出身のアデバヨール選手は、アーセナル、マンチェスター・シティ、レアル・マドリード、トッテナム等有名チームでも活躍し、現在はトルコのイスタンブール・バシヤクシェヒルFK所属。
- アンゴラで行われた2010年のアフリカネイションズカップの際に、代表チームバスが襲撃を受けて死傷者が発生し、参加を辞退したことから、2大会出場停止処分を受けたが、処分解除後の2013年アフリカネイションズカップでは、初の順々決勝進出を果たしている。
- トーゴは、FIFAワールドカップ出場1回（2006年）、アフリカネイションズカップ出場8回。


【クタマク】

- バタマリバ人の土地であるクタマク（トーゴ北東部カラ州近辺に広がる約5万ヘクタールの地域）は、2004年にユネスコの世界遺産に登録された。現在のところ、トーゴで唯一のユネスコ世界遺産である。
- この地域の特徴は、タキエンタと呼ばれる搭状の住居が数多く見られることである。バタマリバ人にとって自然は社会的儀式や信仰と深い関わりがあり、タキエンタはその社会構造や自然と人々との結びつきを反映しているとされる。
- キリスト教やイスラムとは一線を画した状態で独自の文化的景観を保ち続けていたことが評価され、世界遺産への登録が認められた。

【彫像】

- トーゴ・ベナン一帯では、精霊と対話するため、あるいは健康や多産、家内安全などの願いを込めて、数多くの仮面や彫像が生み出されてきた。その後フランスの植民地支配を受けた時代、西洋からの視点を得て、部族美術の特徴をより強く打ち出した彫像を作るようになった。これらは「コロン人形(コロニアル時代＝植民地時代の特徴をもった人形)」と呼ばれている。

【プランテン】

- バナナと外見は同じだが長さは約1.5倍の“料理用バナナ”。甘みはほとんどなく、焼いたり、揚げたりして料理するトーゴ人の主食。カリブ諸国や東南アジアでも食されているが、アフリカのプランテンは長くて大きい。(了)